

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2011-1703

(P2011-1703A)

(43) 公開日 平成23年1月6日(2011.1.6)

(51) Int.Cl.

E04G 1/30 (2006.01)

F 1

E04G 1/30

テーマコード (参考)

Z

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2009-143442 (P2009-143442)
 (22) 出願日 平成21年6月16日 (2009. 6. 16)

(71) 出願人 000002299
 清水建設株式会社
 東京都港区芝浦一丁目2番3号
 (71) 出願人 592145903
 株式会社ミルックス
 東京都中央区京橋二丁目18番3号
 (71) 出願人 000101662
 アルインコ株式会社
 大阪府高槻市三島江1丁目1番1号
 (74) 代理人 100069578
 弁理士 藤川 忠司
 (74) 代理人 100154014
 弁理士 正木 裕士
 (74) 代理人 100154520
 弁理士 三上 祐子

最終頁に続く

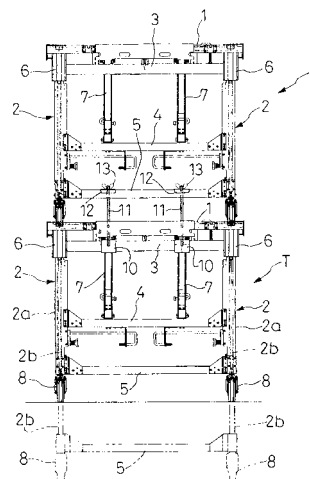
(54) 【発明の名称】 作業台の連結装置

(57) 【要約】

【課題】一つの作業台の天板上に他の作業台の脚柱を載せて積み重ねた時に上下に隣り合う作業台どうしを簡単に連結することのできる連結装置を提供する。

【解決手段】天板1の下面側四隅に脚柱2を取り付け、天板1の妻側端部で対向する両脚柱2、2間に上下複数の横材3、4、5を横架した作業台において、一つの作業台Tの天板1上に他の作業台Tを載せて積み重ねた時に上下作業台T、Tどうしを動かないように連結する連結装置は、下端部にツカミ金具10を有する連結アーム11と押え金具12と締付用ナット13とを具備し、下段側作業台Tの最上部側横材3を下方からツカミ金具10でつかんだ連結アーム11を、下段側作業台Tの天板1のアーム挿通孔1aに挿通し、その上端部側を、上段側作業台Tの最下部側横材5のアーム挿通孔5a及び押え金具12のアーム挿通孔12aに通し、その上端雄ねじ部14に締付用ナット13を螺合する。

【選択図】図2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

天板の下面側四隅に脚柱が取り付けられ、天板の妻側端部で対向する両脚柱間に上下複数の横材が横架されている作業台において、一つの作業台の天板上に他の作業台を載せて積み重ねた時に上下の作業台どうしを動かないように連結するための連結装置は、下端部にツカミ金具を有し、上端部に雄ねじ部を形成した連結アームと、アーム挿通孔を有する押え金具と、連結アームの上端雄ねじ部に螺合する締付用ナットとを具備し、下段側作業台の最上部側横材を下方からツカミ金具によってつかんだ連結用アームを、下段側作業台の天板に設けたアーム挿通孔に挿通し、その上端部側を、上段側作業台の最下部側横材に設けたアーム挿通孔及びこの最下部側横材の上面側に配置した押え金具のアーム挿通孔に通して、その上端雄ねじ部に締付用ナットを螺合するようにした作業台の連結装置。

10

【請求項 2】

連結用アームは、上部側の第 1 直線状アームと、第 1 直線状アームの下端部から屈曲部を介して屈曲し第 1 直線状アームと平行に延びる下部側の第 2 直線状アームとからなり、第 1 直線状アームの延長線上にツカミ金具の中心部が位置するようにツカミ金具を第 2 直線状アームの下端部に取り付けてなる請求項 1 に記載の作業台の連結装置。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、建物の建設現場等において、天井内の耐火被覆作業、配線作業、配管作業等あるいは天井下地やこの下地への天井ボードの取付け、設備器具の取付け等の天井作業、あるいはまたブラインドボックス等の取付作業等々の高所作業を行うのに使用される作業台において、一つの作業台の天板上に他の作業台を載せて積み重ねた時に上下の作業台どうしを動かないように連結するための連結装置に関する。

20

【背景技術】

【0002】

建物の建設現場で使用される作業台は、天板と、これの下面側の四隅に取り付けられた 4 本の脚柱とからなるもので、天板の妻側端部で対向する両脚柱間に上下複数の横材が横架されている。また各脚柱は、脚柱本体と、これに伸縮可能に接続された伸縮部材とからなるもので、天板の妻側端部で対向する両脚柱の脚柱本体間には最上部の横材と中間部の横材とが横架され、その両脚柱の伸縮部材間に最下部の横材が横架されている。そして、建設現場で一般に使用される作業台としては、天板の幅が 1 m、その長さが 2 m、また伸縮部材を最大限収縮した状態での作業台の高さが約 1 . 0 m、最大限伸張した状態での高さが約 1 . 3 m 程度のものが多く使用されている。

30

【0003】

ところが、例えば図 7 の (a) に示す鉄骨梁 H 回りの耐火被覆作業 (N が被覆部を示す) のように床面から作業床面までの高さが 2 m 以上必要な場合には、上記したような高さが約 1 . 0 m 程度の作業台では、伸縮部材を伸張した状態でも天板高さがせいぜい 1 . 3 m 程度であるために使用できず、従ってこのような鉄骨梁耐火被覆作業には図示のようなテーブルリフター R 等の高所作業車や、図示は省略するがローリングタワー等の足場を使用する必要があった。尚、同図に示すように天井下地への天井板 S の取付作業は、作業床面高さが比較的低いので、上記した天板高さが約 1 . 0 の作業台 10 T が使用される。図 7 において、P は建物躯体側のデッキプレートを示す。

40

【0004】

上記鉄骨梁耐火被覆作業に使用されるようなテーブルリフター等の高所作業車やローリングタワー等は、大掛かりな構造であるためコストが高く、設備費用の高騰を来すという問題があった。また、従来の高所作業車では作業床面積が小さく、且つ作業車の横移動、上下昇降時間の無駄が多く、作業性が悪かった。

【0005】

そこで、上記のように天板高さが例えば 1 . 0 ~ 1 . 3 m 程度と比較的低い作業台を 2

50

台積み重ねるようにすれば、高さが２倍になるから、上記鉄骨梁回り耐火被覆作業のように床面から天板までの高さが例えば２．５ｍ程度必要な高所作業が行なえることになる。しかし、この場合には、作業台を単に積み重ねただけでは不安定で危険であることから、上下の作業台どうしを連結して固定する必要がある。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００６】

本発明は、上記のような課題に鑑み、高さが比較的低く、製作コストの安い作業台を複数台積み重ねることにより、例えば鉄骨梁回り耐火被覆作業のような天井作業等、その他の高所作業に有効に使用できるようにするために、一つの作業台の天板上に他の作業台の脚柱を載せて積み重ねた時に上下に隣り合う作業台どうしを動かないように連結する連結装置を提供することを目的とする。

10

【課題を解決するための手段】

【０００７】

上記課題を解決するための手段を、後述する実施形態の参照符号を付して説明すると、請求項１に係る発明は、天板１の下面側四隅に脚柱２が取り付けられ、天板１の妻側端部で対向する両脚柱２，２間に上下複数の横材３，４，５が横架されている作業台において、一つの作業台Ｔの天板１上に他の作業台Ｔを載せて積み重ねた時に上下の作業台Ｔ，Ｔどうしを動かないように連結するための連結装置は、下端部にツカミ金具１０を有し、上端部に雄ねじ部１４を形成した連結アーム１１と、アーム挿通孔１２ａを有する押え金具１２と、連結アーム１１の上端雄ねじ部１４に螺合する締付用ナット１３とを具備し、下段側作業台Ｔの最上部側横材３を下方からツカミ金具１０によってつかんだ連結アーム１１を、下段側作業台Ｔの天板１に設けたアーム挿通孔１ａに挿通し、その上端部側を、上段側作業台Ｔの最下部側横材５に設けたアーム挿通孔５ａ及びこの最下部側横材５の上面側に配置した押え金具１２のアーム挿通孔１２ａに通して、その上端雄ねじ部１４に締付用ナット１３を螺合するようにしたことを特徴とする。

20

【０００８】

請求項２は、請求項１記載の作業台の連結装置において、連結アーム１１は、上部側の第１直線状アーム１１ａと、第１直線状アーム１１ａの下端部から屈曲部１１ｃを介して屈曲し第１直線状アーム１１ａと平行に延びる第２直線状アーム１１ｂとからなり、第１直線状アーム１１ａの延長線上にツカミ金具１０の中心部が位置するようにツカミ金具１０を第２直線状アーム１１ｂの下端部に取り付けてなることを特徴とする。

30

【発明の効果】

【０００９】

上記解決手段による発明の効果を、後述する実施形態の参照符号を付して説明すると、請求項１に係る発明の連結装置は、下端部にツカミ金具１０を有し、上端部に雄ねじ部１４を形成した連結アーム１１と、アーム挿通孔１２ａを有する押え金具１２と、連結アーム１１の雄ねじ部１４に螺合する締付用ナット１３からなるもので、下段側作業台Ｔの最上部側横材３を下方からツカミ金具１０によってつかんだ連結アーム１１を、下段側作業台Ｔの天板１に設けたアーム挿通孔１ａに挿通し、その上端部側を、上段側作業台Ｔの最下部側横材５に設けたアーム挿通孔５ａ及びこの最下部側横材５の上面側に配置した押え金具１２のアーム挿通孔１２ａに通して、その上端雄ねじ部１４に締付用ナット１３を螺合し、締結すればよいから、部品点数が少なく、構造が簡単でありながら、上下に積み重ねた作業台Ｔ，Ｔどうしを簡単容易にして的確に固定することができる。

40

【００１０】

このような連結装置によれば、高さが比較的低く、比較的安価な作業台を積み重ねることによって、例えば鉄骨梁回り耐火被覆作業のように比較的高所での作業に使用できると共に、上下の作業台Ｔ，Ｔどうしを連結固定することによって安全に使用でき、それにより高所作業用の特別な作業台が不要となり、設備費用の軽減を図ることができる。

【００１１】

50

請求項 2 に係る発明のように、連結アーム 1 1 を、上部側の第 1 直線状アーム 1 1 a と、第 1 直線状アーム 1 1 a の下端部から屈曲部 1 1 c を介して屈曲し第 1 直線状アーム 1 1 a と平行に延びる第 2 直線状アーム 1 1 b とで構成すると共に、第 1 直線状アーム 1 1 a の延長線上にツカミ金具 1 0 の中心部が位置するようにツカミ金具 1 0 を第 2 直線状アーム 1 1 b の下端部に取り付けているから、天板 1 のアーム挿通孔 1 a 及び最下部側つなぎ用横材 5 のアーム挿通孔 5 a への挿通作業が容易となる。

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図 1】(a) は本発明に係る作業台を上下に積み重ねた状態の正面図、(b) はその平面図である。

10

【図 2】積み重ねた状態の正面図の側面図である。

【図 3】(a) は上下の作業台を連結する連結装置の正面図、(b) は側面図である。

【図 4】(a) , (b) は連結装置による作業台の連結過程の前半を説明する説明図である。

【図 5】(a) , (b) は連結装置による作業台の連結過程の後半を説明する説明図である。

【図 6】(a) ~ (d) は 連結装置による作業台の一連の連結過程を説明する説明図である。

【図 7】(a) はテーブルリフターを使用して鉄骨梁耐火被覆作業を行っている状態を示す説明図、(b) は本発明に係る作業台を 2 台積み重ねて鉄骨梁耐火被覆作業を行っている状態を示す説明図である。

【発明を実施するための形態】

20

【0013】

以下に本発明の好適な一実施形態を図面に基づいて説明すると、図 1 及び図 2 に示す作業台 T は、作業者が載って作業を行う天板 1 と、この天板 1 の下面側の前後左右の四隅に取り付けられた 4 本の脚柱 2 とからなるもので、天板 1 の下面側の妻側端部で対向する両脚柱 2 , 2 間には、最上部側の脚柱回転軸材 (最上部側横材) 3 と、中間部側のつなぎ用横材 4 と、最下部側のつなぎ用横材 5 とが横架されている。脚柱回転軸材 3 は丸形鋼管からなり、つなぎ用横材 4 , 5 は夫々角形鋼管からなる。

【0014】

脚柱回転軸材 3 は、つなぎ用横材 4 , 5 によって連結された両脚柱 2 , 2 を天板 1 の下面側に折り畳むための枢軸となるもので、その両端部は天板 1 下面の妻側両端部に固定されたブラケット 6 , 6 に回転自在に支持されており、従って両脚柱 2 , 2 は、脚柱回転軸材 3 を中心として、図 1 の実線図示のような開脚位置と、天板 1 の下面に添うように折り畳まれる折り畳み位置 (図示省略) との間で回転可能となっている。天板 1 と中間部側つなぎ用横材 4 との間には、途中で屈曲自在なステイ 7 が介装されている。

30

【0015】

各脚柱 2 は、主脚柱 2 a と、この主脚柱 2 a 内に嵌挿されて伸縮可能に接続された伸縮脚柱 2 b とからなるもので、図 2 から分かるように、天板 1 の妻側端部で対向する両主脚柱 2 a , 2 a どうしが中間部側つなぎ用横材 4 によって連結され、またその伸縮脚柱 2 b , 2 b どうしが最下部側つなぎ材 5 によって連結されている。各伸縮脚柱 2 b の下端部にはキャスター 8 が取り付けられている。両伸縮脚柱 2 b , 2 b は、説明は省略するが、周知のロック手段によって任意の伸縮位置で固定可能となっている。

40

【0016】

図 1 及び図 2 に示すように一つの作業台 T の天板 1 上に他の作業台 T の脚柱 2 を載せて積み重ねた時に上下の作業台 T , T どうしを動かないように連結するための連結装置は、図 2 及び図 3 から分かるように、下端部にツカミ金具 1 0 を有し、上端部に雄ねじ部 1 4 を形成した連結アーム 1 1 と、アーム挿通孔 1 2 a を有する押え金具 1 2 と、前記連結アーム 1 1 の上端雄ねじ部 1 4 に螺合する締付用ナット 1 3 とを具備してなるもので、下段側作業台 T の脚柱回転軸材 (最上部側横材) 3 を下方からツカミ金具 1 0 によってつかんだ連結アーム 1 1 を、下段側作業台 T の天板 1 に設けたアーム挿通孔 1 a に挿通し、そのアーム 1 1 の上端部側を、上段側作業台 T の最下部側つなぎ用横材 (最下部側横材) 5 に

50

設けたアーム挿通孔 5 a 及びこの最下部側つなぎ用横材 5 の上面側に配置した押え金具 1 2 のアーム挿通孔 1 2 a に通して、アーム 1 1 の上端雄ねじ部に締付用ナットを螺合し、締結するようになっている。

【 0 0 1 7 】

上記の連結装置の構造について更に詳しく説明すれば、ツカミ金具 1 0 は、図 3 の (a) , (b) 及び図 4 の (a) に示すように、鋼板材により断面略逆台形状に形成されたもので、連結アーム 1 1 の下端部に溶接により固着されていて、下段側作業台 T の最上部側回転軸材 (最上部側横材) 3 に下方より係合してつかみ上げるようになっている。

【 0 0 1 8 】

連結アーム 1 1 は、図 3 の (a) , (b) に示すように、上部側の第 1 直線状アーム 1 1 a と、第 1 直線状アーム 1 1 a の下端部から屈曲部 1 1 c を介して屈曲し第 1 直線状アーム 1 1 a と平行に延びる下部側の第 2 直線状アーム 1 1 b とからなるもので、図 3 の (b) に示すように、第 1 直線状アーム 1 1 a の軸線 g の延長線 g ' 上にツカミ金具 1 0 の開口 w の中心部が位置するようにツカミ金具 1 0 が第 2 直線状アームの下端部に取り付けられ、第 1 直線状アーム 1 1 a は、下段側作業台 T の最上部側横材 3 と上段側作業台 T の最下部側つなぎ用横材 5 を結ぶ直線上に位置する天板 1 のアーム挿通孔 1 a を通るようになっている。

【 0 0 1 9 】

押え金具 1 2 は、図 3 の (a) , (b) 及び図 5 の (a) に示すように、鋼板材によりつなぎ用横材 5 の上端部に嵌合するような下向きコの字状に形成されていて、締付用ナット 1 3 を締め付ける時に、締め付け力を有効に発揮させるようにすると共に、つなぎ用横材 5 が変形したり損傷しないようにするためのものである。締付用ナット 1 3 は、蝶ナットからなる。

【 0 0 2 0 】

上記のように構成される連結装置による作業台 T の連結操作について、図 4 ~ 図 5 及び図 6 の (a) ~ (d) を参照して以下に説明する。

【 0 0 2 1 】

図 1 及び図 2 に示すように一つの作業台 T の天板 1 上に他の作業台 T を載せて積み重ねた状態において、図 4 の (a) , (b) に示すように、連結アーム 1 1 の下端部のツカミ金具 1 0 を下段側作業台 T の回転軸材 (最上部側横材) 3 に下方から嵌合させてつかんだ状態で、連結アーム 1 1 を下段側作業台 T の天板 1 に設けたアーム挿通孔 1 a に挿通し、そして図 5 の (a) , (b) に示すように、この連結アーム 1 1 の上端部側を、上段側作業台 T の最下部側横材 5 にあるアーム挿通孔 5 a 及びこの最下部側横材 5 の上面側に嵌合配置した押え金具 1 2 のアーム挿通孔 1 2 a に挿通して、その上端雄ねじ部 1 4 に締付用ナット 1 3 を螺合し、締め付けることによって、下段側作業台 T の最上部側横材 3 と上段側作業台 T の最下部側横材 5 とを緊締する。

【 0 0 2 2 】

この場合、下段側作業台 T の脚柱回転軸材 3 と上段側作業台 T の最下部側つなぎ用横材 5 とは上下方向に対向する位置にあり、また下段側作業台 T の天板 1 のアーム挿通孔 1 a は、脚柱回転軸材 3 とつなぎ用横材 5 を結ぶ対向線上に位置しているため、連結アーム 1 1 が全長にわたって直線状のまま、この連結アーム 1 1 の下端部にツカミ金具 1 0 の一側部を取り付けたのでは、ツカミ金具 1 0 が下段側作業台 T の脚柱回転軸材 3 をつかんでも、連結アーム 1 1 を天板 1 のアーム挿通孔 1 a に通すのが困難となり、またそれを通して、上段側作業台 T の最下部側つなぎ用横材 5 のアーム挿通孔 5 a には通せなくなる。

【 0 0 2 3 】

このために、連結アーム 1 1 を、図 3 の (b) に示すように、上部側の第 1 直線状アーム 1 1 a と、この第 1 直線状アーム 1 1 a の下端部から屈曲部 1 1 c を介して屈曲し、第 1 直線状アーム 1 1 a と平行に延びる第 2 直線状アーム 1 1 b とによって構成すると共に、第 1 直線状アーム 1 1 a の軸線 g の延長線 g ' 上にツカミ金具 1 0 の開口 w の幅方向中心部が位置するようにツカミ金具 1 0 の一側部を第 2 直線状アーム 1 1 b の下端部に取り付

10

20

30

40

50

けている。

【0024】

連結アーム 11 を上記のような構成とすることにより、天板 1 のアーム挿通孔 1a 及び最下部側つなぎ用横材 5 のアーム挿通孔 5a への挿通作業が容易となり、その挿通作業を図 6 に示す。即ち、(a) , (b) に示すように、連結アーム 11 を鉛直姿勢に対し斜めにした姿勢でその上端部側を下段側作業台 T の天板 1 のアーム挿通孔 1a に対し上方へ通し入れた後、(c) に示すように連結アーム 11 を鉛直姿勢に立て直し、そのまま持ち上げることによって、(d) に示すように連結アーム 11 下端側のツカミ金具 10 を下段側作業台 T の脚柱回転軸材 3 に対し下方より嵌合させると共に、上段側作業台 T の最下部側つなぎ用横材 5 のアーム挿通孔 5a 及び押え金具 12 のアーム挿通孔 12a に挿通し、その挿通端部である雄ねじ部 14 に締付用ナット 13 を螺合し、締め付ければよい。

10

【0025】

この実施形態の連結装置では、下段側作業台 T の左右両端側にある夫々の最上部側横材 3 と上段側作業台 T の左右両端側にある夫々の最下部側横材 5 との間に連結アーム 11 が 2 本ずつ連結され (図 2 及び図 5 の (b) 参照)、それによって上下に積み重ねた作業台 T , T どうしを確固不動に固定することができる。

【0026】

以上の実施形態で説明した本発明に係る連結装置は、下端部にツカミ金具 10 を有し、上端部に雄ねじ部 14 を形成した連結アーム 11 と、アーム挿通孔 12a を有する押え金具 12 と、連結アーム 11 の雄ねじ部 14 に螺合する締付用ナット 13 からなるもので、下段側作業台 T の最上部側横材 3 を下方からツカミ金具 10 によってつかんだ連結アーム 11 を、下段側作業台 T の天板 1 に設けたアーム挿通孔 1a に挿通し、その上端部側を、上段側作業台 T の最下部側横材 5 に設けたアーム挿通孔 5a 及びこの最下部側横材 5 の上面側に配置した押え金具 12 のアーム挿通孔 12a に通して、その上端雄ねじ部 14 に締付用ナット 13 を螺合し、締結すればよいから、部品点数が少なく、構造が簡単でありながら、上下に積み重ねた作業台 T , T どうしを簡単容易にして的確に固定することができる。

20

【0027】

また、上述の実施形態では、作業台 T を上下 2 段に積み重ねて両作業台 T , T を連結する場合についてのみ説明したが、3 段もしくはそれ以上積み重ねる場合にも適用可能で、上下に積み重ねた作業台 T , T どうしを的確に固定することができる。

30

【0028】

尚、この実施形態に示す作業台 T では、床面から天板 1 上面までの高さは、伸縮脚柱 2b を最大限収縮した状態で約 1.0 m であり、また伸縮脚柱 2b を最大限伸張した状態では約 1.3 m であるから、一つの作業台 T の上に他の作業台 T を載せることによって、床面から上段側作業台 T の天板 1 上面までの高さは 2H で、約 2.0 ~ 2.6 m (具体的には事務所ビルであれば、2.2 ~ 2.5 m 程度) である。従って、例えば鉄骨梁回りの耐火被覆作業には作業高さが約 2.5 m 程度必要とする場合が多いが、この場合にはきわめて有用である。このような鉄骨梁回り耐火被覆作業時は使用数量も少ないが、軽天作業を行なう時には、積み重ねていた作業台 T を降ろすことにより、作業高さが約 1.0 ~ 1.3 m 程度の作業台として使用することができる。また、作業台 T を 2 台積み重ねて使用することにより、上記のような耐火被覆作業時に使用していた作業台数量で、軽天作業台とした場合 (作業台 T を積み重ねることなくそのまま使用する場合) は、同じ数量で軽天作業時の床面積は 2 倍の広さを有することができる。

40

【0029】

図 7 の (b) には、作業台 T を二つ積み重ねて、鉄骨梁 H 回りの耐火被覆作業を行なっている状態を示す。この場合、鉄骨 H 梁回りの耐火被覆作業には作業高さが約 2.5 m 程度必要とするが、天板高さ約 1.0 ~ 1.3 m の作業台 T を 2 台積み重ねると、床面から上段側作業台 T の天板 1 上面までの高さが約 2.0 ~ 2.6 m となるから、これによって鉄骨梁回りの耐火被覆作業を行なうことができる。天井下地への天井板 S の取付作業は作業

50

床面高さが比較的低いため、上記作業台 T をそのまま使用すればよいことになる。また、上段側作業台 T の天板 1 上面までの高さが 2 . 0 m を越える場合には、天板 1 の周縁部に沿って着脱可能な手摺りを設置するとよい。

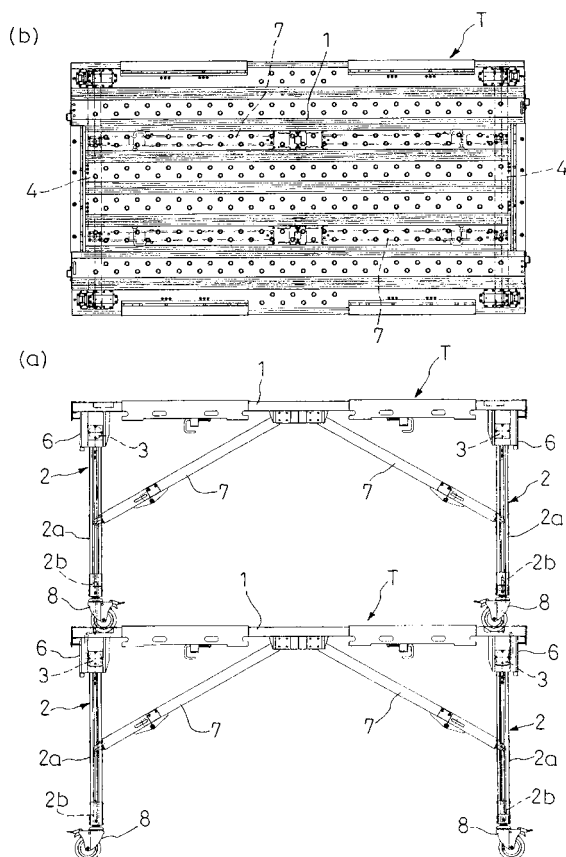
【符号の説明】

【 0 0 3 0 】

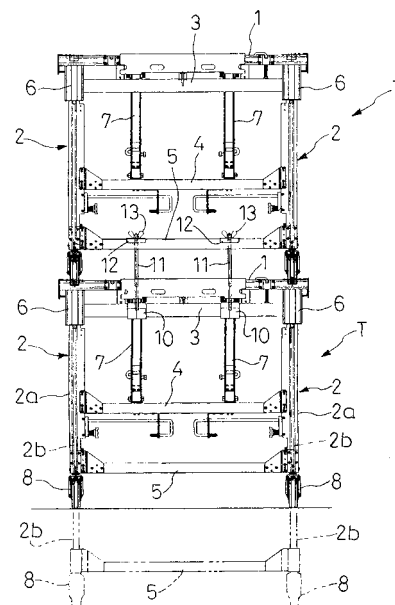
T	作業台
1	天板
2	脚柱
3	作業台の最上部側横材
4	作業台の中間部側横材
5	作業台の最下部側横材
1 0	ツカミ金具
1 1	連結アーム
1 2	押え金具
1 3	締付用ナット
1 4	連結アームの雄ねじ部

10

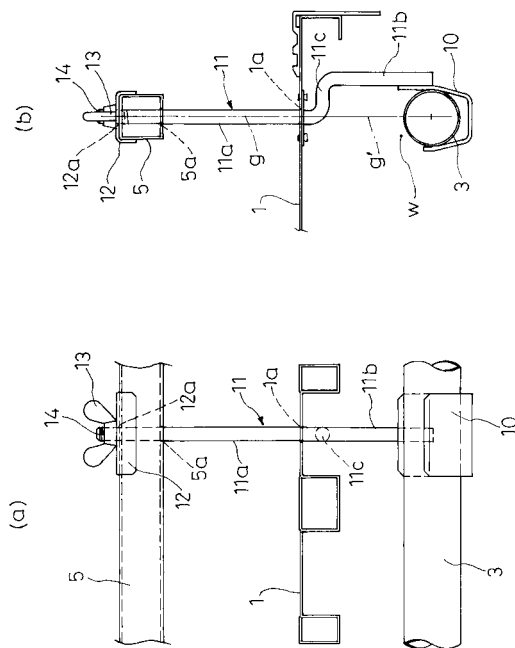
【 図 1 】



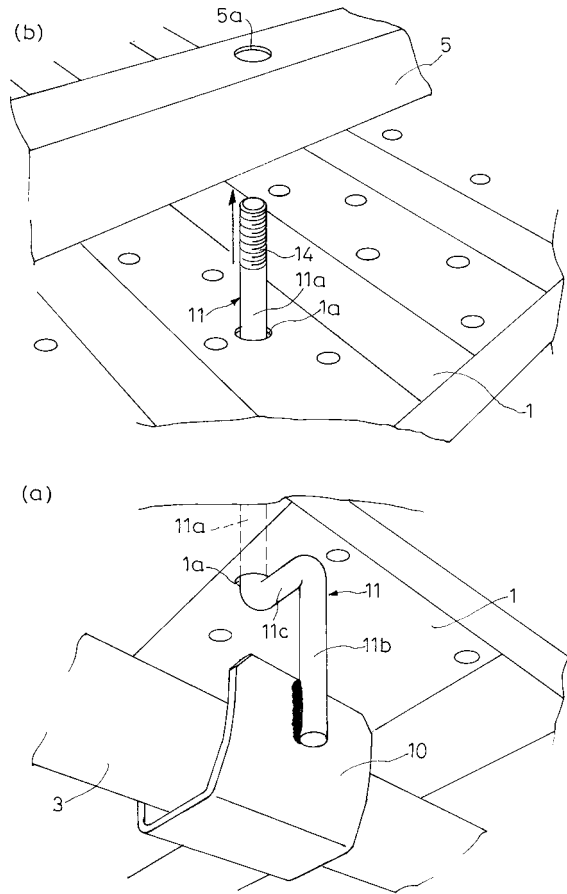
【 図 2 】



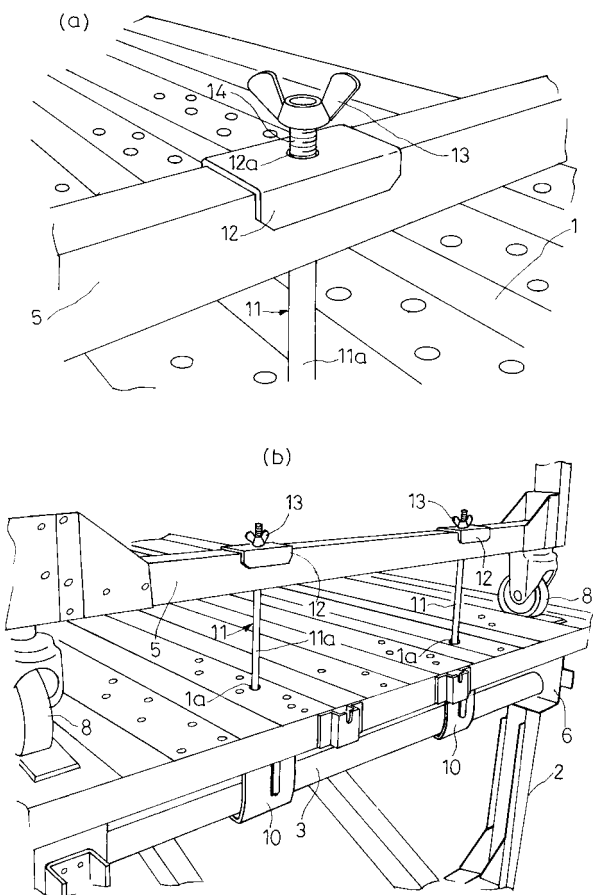
【図 3】



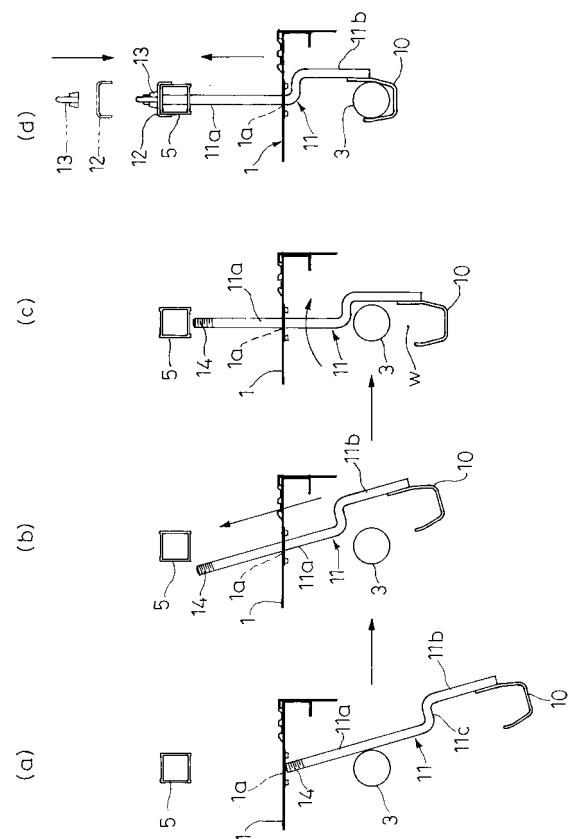
【図 4】



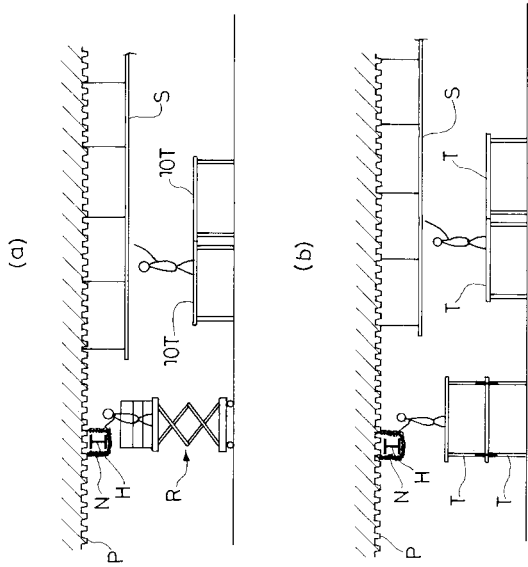
【図 5】



【図 6】



【図 7】



フロントページの続き

- (72)発明者 菅谷 善昌
東京都港区芝浦一丁目2番3号 シーバンスS館 清水建設株式会社内
- (72)発明者 横田 雅紀
東京都中央区京橋2 - 1 8 - 3 株式会社ミルックス内
- (72)発明者 山岡 豊
大阪府高槻市三島江一丁目1番1号 アルインコ株式会社内